



TITLE:

親友佐波宣平さんの霊に捧げる

AUTHOR(S):

葛城, 照三

CITATION:

葛城, 照三. 親友佐波宣平さんの霊に捧げる. 経済論叢 1968, 101(5): 508-509

ISSUE DATE:

1968-05

URL:

<https://doi.org/10.14989/133266>

RIGHT:

經濟論叢

第101卷 第5号

哀 辞

故佐波宣平教授遺影および原稿

ミュール型紡績工場	堀 江 英 一	1
部門間の連関構造	山 田 浩 健 井 原 之 雄	23
原価管理思考としての変動予算概念	野 村 秀 和	43
低開発国開発計画における技術選択	名 畑 恒	64

記 事

佐波教授逝く

追悼講演 (山田浩之 前田義信 谷山新良 森嶋通夫 上田三四二)

追 憶 談 (葛城照三 安間進)

故佐波宣平教授自作年譜

昭和43年5月

京 都 大 学 經 済 学 会

追 憶 談

親友佐波宣平さんの霊に捧げる

葛 城 照 三

佐波さん、私はあなたの霊に申し上げます。あなたと私の交友は、昭和15年、日本保険学会創立総会に始まりました。昭和17年、政府の戦時保険政策委員として、戦中から戦後にかけて日本各地を見学して廻りました時も、損害保険事業研究所の依頼で、関西、九州の各地を講演旅行しました時も、あなたと私は常に一緒でした。私はあなたの学殖の深いことと学問研究の真摯な態度と社会正義心の強いことに心を引かれ、あなたも亦私の究学の態度に同感してくれました。私が関西方面に来ましたときは、あなたの内に

泊めていただき、あなたが東京に来られたときは、私の内に泊まっていたが、共に学問の途を語り合いました。

昨年11月、あなたの最終講義があることを、あなたの友人である松本一郎さんから、前以って聞きましたがそれが公開講義であることに気が付かず、拜聴する機会を失したことを、今でも残念に思っております。

翌日、朝日新聞で最終講義の様式を知り、家族と共に泣きました。早速お見舞にかけつけようとしたが、あなたを興奮させてはいけないと山田浩之さんから電話がありましたので、遠慮しました。結局、昨年6月、あなたが教え子の招待で東京に来られたときに語り合ったのが最後となりました。

然しながら、交友28年間、あなたと私は京都と東京に別れ別れに住んでおりましても、常に一緒に住んでいるかのように、心は通っております。

まだまだやりたい仕事沢山あったことでせう。それを思うと断腸の思いがします。

御家庭では賢婦の誉れ高い夫人が居られ、2男2女のお子様方も立派に成長されましたから、あなたの亡き後は淋しいながらも、親子5人、お互いに援け合い、励まし合って円満な家庭を築き、あなたの冥福を祈ることとせう。

又学校関係では、あなたは多数の有能な学者や実業人を育て上げましたから、この人達は、あなたの意を体して、学問に、そして又実業に、社会のお役に立つに相違ありません。

佐渡さん、天命は致方ありません。どうか安心して、静かに、永遠の眠りについて下さい。あなたやあなたの御家族と親しくいていただいた私の妻や子も、この日この時刻に、東京の空から、あなたの御冥福を祈っております。